

1-3

ユニット内波乱万丈

認知症利用者におけるユニットケアの取り組み

重度の認知症

個別ケア

特別養護老人ホーム 千住桜花苑

発表者：ケアワーカー 菅野 菜美

共同研究者：ケアワーカー 荒井 美智子

所在地：東京都足立区千住元町18-19

TEL：03-5244-6881

E-mail：senju_oukaen@seifuukai.or.jp

FAX：03-5244-6880

URL：http://www.seifuukai.or.jp/

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

社会福祉法人聖風会、千住桜花苑は平成19年6月に100床の特養(ユニット型)、20床のショートステイ(ユニット型)、デイサービス、ケアマネセンターが開設された、高齢者総合福祉施設です。

〈取り組んだ課題〉

下記の認知症行動がある複数のユニット内利用者に対する、行動を制限しないケア。

- 見当識障害
- 弄便
- 異食
- 徘徊
- 物を持っていってしまう
- 隠してしまう
- 盗られ妄想
- 帰宅願望

〈具体的な取り組み〉

- 職員と一緒に家事をおこなう(ユニット利用者分の御飯、お味噌汁、副菜の盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなど)
- バランダの植物のお世話を願う
- お化粧を習慣化する
- 危険がなければ装飾品や家具など、動かしても抑制しない
- 集中できることの見直し
- 落ち着ける環境の見直し
- 排泄時間の見直しと確実な見守り

〈活動の成果と評価〉

○〈弄便・おむついじり〉

弄便とおむついじりが起きる時間帯を把握し、その少し前にトイレ誘導を行うことである程度防ぐ事は出来たがまだまだ完全には防ぎ切れていない。

○〈家事・園芸〉

食事のお手伝いを自分の役割として認識する事ができた。植物への水やりも自ら行ってくれるようになった。

ただ、夕方の帰宅願望は全く減らない。

○〈化粧〉

昔はキレイにしていた方に対して、毎朝化粧道具を手渡して化粧を行う習慣をつけることでその人らしい生活に近づくことが出来た。

○〈装飾品〉

装飾品をいじってどこかへ持って行ってしまうため、あまり飾る事が出来ないが、今置いている物に関してはたとえ持ち歩いてしまっても抑制せず、好きなようにいじってもらう事でその方のストレス軽減につながった。

○〈集中出来ることの検討〉

徘徊が激しい方に対して、毎日16時に職員と共に洗濯場まで清拭を取りに行き、夕食後にたたむ習慣を促した。半年以上行っているが、たたむことへの理解が定着はしていない。

○〈落ち着ける環境〉

他利用者の出す音や声にイライラしてしまう方に対して、好きな音楽の提供や静かに落ち着ける環境作りを取り組み中。

〈今後の課題〉

- 装飾品の充実と工夫
- 認知症と身体能力の低下(重度化)に対する対応

【メモ欄】